

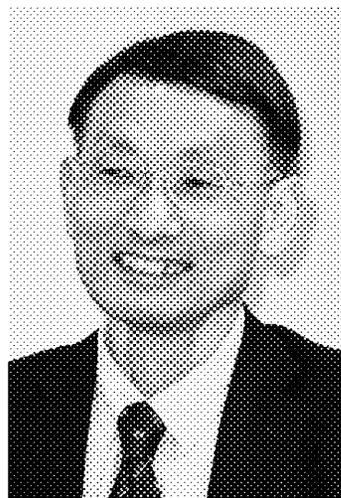
# 研究開発 の道案内

## KRIの挑戦

5

KRI社長

川崎真一氏



を得ている。強みや今後の戦略について川崎真一社長に聞いた。

— KRIの特徴は。

「特定分野だけでなく、幅広い分野を手がける。大学の研究より実用的、国や自治体の試験機関より研究的という、ちよつと良い立ち位置にある。また案件の半分は当社独自の研究に基づく提案型だ。顧客企業が、当社とコンタクトを取ることで何か生まれるの

では、と期待してもらえるのが大事。受託研究ではあるが、決して

「京都の本社は、大

# 受け身でない受託研究開発

（おわり。大阪・園尾雅之が担当しました）

の2000年代前半、体制を刷新しました。「それまでは主に中長期な研究開発を提案してきたが、企業も資金的余裕がなくなり、目先の研究開発にシフトしていった。直近のことは企業が自前で行い、その「少し先」を当社に依頼されるようになった。当社も人員を減らさざるを得ず、社名を現在のKRIに変更して、心機一転で体制を整備した」

「今後の展望は。これまでの「これが研究者が一匹おつかみで動くことが多かった。だが近年は商品のライフサイクルが短くなっている。社内外で人的ネットワークを組んで進められる人材を増やさないと対応できない。サービスがモノ売りからコト売りに変化する中で、顧客の経営者層にも深く理解してもらう必要がある。これまでの「知る人ぞ知る」という位置づけではいけない。登山に例えるのならば、土地を知り尽くして一緒に道を導き出す『シエルパ』のような存在を目指していく」

「カーボンニュートラル（温室効果ガス排出量実質ゼロ）関連の学官で連携している。今後、事業規模の拡大に伴って拠点増設もある。大ガスが同地区で新研究開発拠点を整備中だ。それに合わせ当社も、独自にカーボンニュートラル関連の設備増強を進める」

「ITバブル崩壊後、研究開発は、大阪市此花区の西島地区で展開する。大ガスが同地区を減らさざるを得ず、社名を現在のKRIに変更して、心機一転で体制を整備した」

「カーボンニュートラル（温室効果ガス排出量実質ゼロ）関連の学官で連携している。今後、事業規模の拡大に伴って拠点増設もある。大ガスが同地区で新研究開発拠点を整備中だ。それに合わせ当社も、独自にカーボンニュートラル関連の設備増強を進める」

「ITバブル崩壊後、研究開発は、大阪市此花区の西島地区で展開する。大ガスが同地区を減らさざるを得ず、社名を現在のKRIに変更して、心機一転で体制を整備した」

「カーボンニュートラル（温室効果ガス排出量実質ゼロ）関連の学官で連携している。今後、事業規模の拡大に伴って拠点増設もある。大ガスが同地区で新研究開発拠点を整備中だ。それに合わせ当社も、独自にカーボンニュートラル関連の設備増強を進める」

「ITバブル崩壊後、研究開発は、大阪市此花区の西島地区で展開する。大ガスが同地区を減らさざるを得ず、社名を現在のKRIに変更して、心機一転で体制を整備した」

「カーボンニュートラル（温室効果ガス排出量実質ゼロ）関連の学官で連携している。今後、事業規模の拡大に伴って拠点増設もある。大ガスが同地区で新研究開発拠点を整備中だ。それに合わせ当社も、独自にカーボンニュートラル関連の設備増強を進める」

「ITバブル崩壊後、研究開発は、大阪市此花区の西島地区で展開する。大ガスが同地区を減らさざるを得ず、社名を現在のKRIに変更して、心機一転で体制を整備した」

「カーボンニュートラル（温室効果ガス排出量実質ゼロ）関連の学官で連携している。今後、事業規模の拡大に伴って拠点増設もある。大ガスが同地区で新研究開発拠点を整備中だ。それに合わせ当社も、独自にカーボンニュートラル関連の設備増強を進める」

「ITバブル崩壊後、研究開発は、大阪市此花区の西島地区で展開する。大ガスが同地区を減らさざるを得ず、社名を現在のKRIに変更して、心機一転で体制を整備した」

「カーボンニュートラル（温室効果ガス排出量実質ゼロ）関連の学官で連携している。今後、事業規模の拡大に伴って拠点増設もある。大ガスが同地区で新研究開発拠点を整備中だ。それに合わせ当社も、独自にカーボンニュートラル関連の設備増強を進める」